

平成26年度第3回^{もり}森林の未来を考える懇談会資料

^{もり}森林づくりタウンミーティングの 結果について

- 1 目的
- 2 実施の概要
- 3 参加者の構成
- 4 ^{もり}森林づくりタウンミーティングの結果

平成27年2月12日

福島県農林水産部森林計画課

森林づくりタウンミーティングの結果について

1 目的

福島県森林環境税の現行制度が平成27年度に満了することから、森林環境税のこれまでの取組や成果を広く周知し、第3期対策に向けた意見や提案を直接いただく、タウンミーティングを開催しました。

2 実施の概要

(1)実施地区 県内7行政区

(福島市、郡山市、会津若松市、いわき市、相馬市、棚倉町、南会津町)

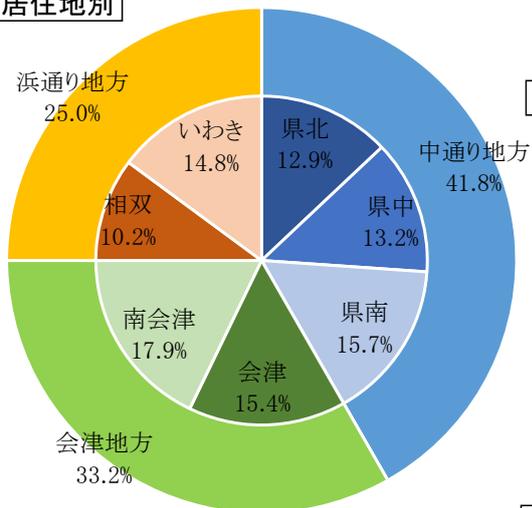
(2)開催時間 夜間2時間程度(説明1時間30分、意見交換30分程度)

(3)参加者数 7方部合計 364名

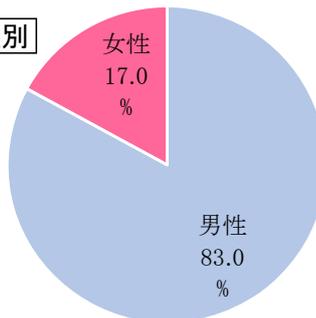
開催地区	開催概要
県北地区	平成26年10月27日(月) 18:30 ~ 20:30 福島県青少年会館 第1研修室 参加者数:47名
県中地区	平成26年10月21日(火) 19:00 ~ 21:00 郡山市市民文化センター 第3会議室 参加者数:50名
県南地区	平成26年10月14日(火) 18:30 ~ 20:30 ルネサンス棚倉 パルテノン 参加者数:57名
会津地区	平成26年10月 7日(火) 19:00 ~ 21:00 会津大学 講義棟M8教室 参加者数:56名
南会津地区	平成26年10月23日(木) 18:30 ~ 20:30 御蔵入交流館 多目的ホール 参加者数:65名
相双地区	平成26年10月16日(木) 19:00 ~ 21:00 相馬市民会館 多目的ホール 参加者数:35名
いわき地区	平成26年10月28日(火) 19:00 ~ 21:00 いわき合同庁舎 第3会議室 参加者数:54名

3 参加者の構成

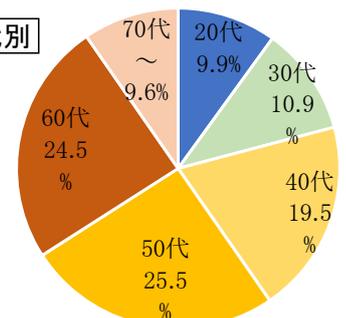
居住地別



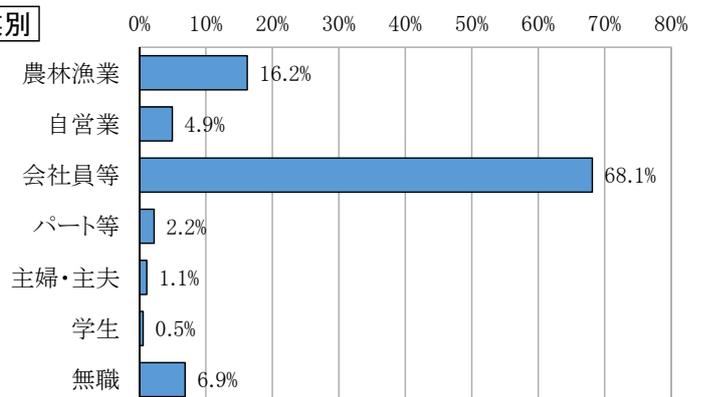
性別



年代別



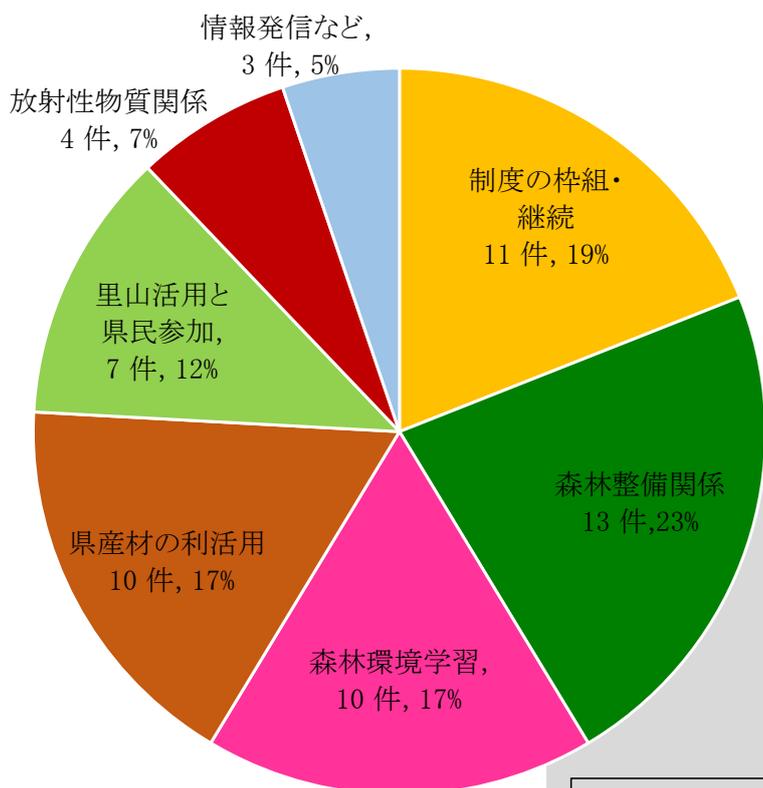
職業別



- 居住地については、県内7方部でほぼ同程度の参加者となった。
- 性別については、男性が大多数を占めた。
- 年代別で見ると、40代～60代の参加者が多い。
- 職業については、会社員等が多い。
- 18時～21時という開催時間であったことから、女性・主婦層の参加が少なくなったと考えられる。

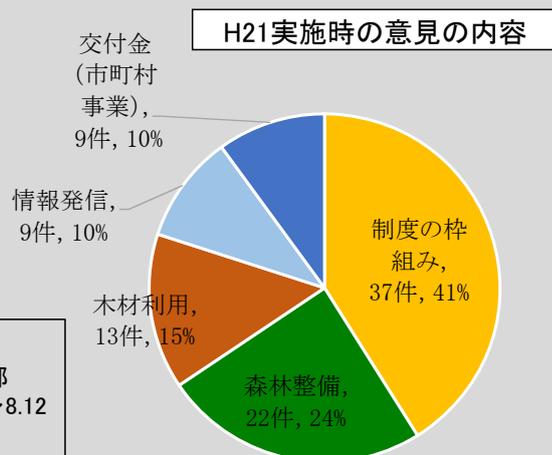
4 森林づくりタウンミーティングの結果

(1) タウンミーティングにおける意見等(内容別)



- ・森林環境税について、継続反対の意見はなかった。
- ・主に森林整備関係、森林環境学習関係、県産材の利活用、里山活用と県民参加についての意見があった。
- ・タウンミーティングに参加するような、森林に関心の高い方々については、森林環境税の制度や枠組についての理解は進んでおり、様々な新たな課題への対応の要望が多くあったと考えられる。

H21タウンミーティング
 ○実施地区 県内7方部
 ○実施期間 H21.7.24~8.12
 ○参加者 415名



(2) 主な意見

① 制度の枠組み・継続

- ・森林整備について、第3期、第4期と制度を継続すべき。
- ・木とふれあう取り組みを継続すべき。
- ・全県民で森林を守る取り組みを継続していくべき。
- ・長いスパンで山の手入れができるよう継続していくべき。
- ・積雪など、市町村の状況に応じた交付金の柔軟な運用が必要。

② 森林整備関係

- ・森林所有者の意識も前向きに変化。
- ・森林の境界明確化に対する支援が必要。
- ・スギ、ヒノキの人工林以外に広葉樹も整備を進めるべき。
- ・植栽から伐採まで長期の取り組みが必要。

③ 森林環境学習

- ・子供たちに対する木工工作や自然観察を支援すべき。
- ・木とのふれあい創出事業は、子供が自由な発想で取り組んでいる。
- ・ボランティアによる森林環境学習活動の支援を拡充すべき。
- ・緑の少年団の育成に活用すべき。

④ 県産材の利活用

- ・地域全体を考えた木材利用対策が必要。
- ・木材の新たな利用開発に取り組むべき。
- ・幼稚園が木造になり温もりが感じられる。木造施設を増やすべき。
- ・材料代のほか建築費への支援拡大が必要。

⑤ 里山の活用と県民参加

- ・里山を活用する方法を推進すべき。
- ・野生動物の被害対策と棲み分けに取り組むべき。
- ・一般県民が参加しやすい取り組みが必要。
- ・全ての県民が参加する取り組みはすばらしく協力したい。

⑥ 放射性物質について

- ・森林内でのボランティア活動にあたり指針がほしい。
- ・土壌に移行した放射性物質を低減する取り組みは行われているのか。
- ・人家近くの森林では、土壌表面の剥ぎ取りなどの対策は行われているのか。
- ・学校の裏山でも除染が進まず放置されている。

⑦ 情報発信など

- ・森林の状況・機能を正確に伝えることが必要。
- ・福島県の木材は安心。全国に発信すべき。
- ・森林環境税を使いみちをPRすべき
- ・間伐材の使い方や入手方法を周知すべき。



タウンミーティングの様子